

共同研究支援報告書

氏名	田口 佳代子	
所属大学名	千葉大学	
職位	特任助教	
研究題目	神経発達症児の親を支える多言語対応プログラムの開発 -アジアでの支援の質とアクセス向上を目指して-	
	短期支援(1年)	長期支援(3年)
本年度の内容報告	<p>アジアにおけるNDD支援構築のためには、低コストで提供可能な支援モデル（構造的アクセス）、スティグマ等の心理的障壁への対応（心理的アクセス）の両側面からのアプローチが必要である。本研究は、神経発達症児の支援において重要な役割を担う「親」を対象とした心理教育プログラムおよびスティグマケアプログラムの開発し、多言語化を通じてアジア地域への適用可能性を検討することを目的とする。</p> <p>研究計画は以下3つとした。</p> <p>①英語、マレーシア語、インドネシア語版プログラムの作成 各国との協議によって決定した10動画について英語版を作成し、マラヤ大学、州立ジャカルタ大学に提供、各国の文化背景に適したプログラムを開発する。</p> <p>②スティグマケアを含むオリジナル版コンテンツの拡張 コンパッションフォーカストセラピー（CFT）をベースとした、スティグマケアに焦点をあてた内容を現状のプログラムに追加。改良する。</p> <p>③各国における多言語プログラムのパイロット検証 以下の内容で日本で先行してシングルアームfeasibility試験を行い、同デザインで各国でも試験を実施する。データをもとにcross-cultural studyとして検証。</p> <p>対象：6~18歳NDD児の保護者 介入：10動画の視聴（1動画10分程度） 比較：単群前後比較 転機：feasibilityに関する項目（以下参照） 副次：PSOC、SDQ、動画評価 期間：2週間+フォローアップ（2週間後） なお、主要アウトカムは以下の通りとする。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 実施可能性 (Feasibility) : リクルートメント率、参加率 2. 継続性 (Retention) : ドロップアウト率、セッション完遂率（視聴完了率） 3. 受容性 (Acceptability) : 満足度、理解度、継続意欲 4. 実装状況 (Implementation) : 動画視聴率、課題実施率 	
成果(論文発表等)	<ul style="list-style-type: none"> ・ 英語版心理教育プログラム(10動画) ・ インドネシア語版プログラム（ブックレット5種） ・ CFTベーススティグマケアプログラム（8セッション冊子） 	
備考		